

第101回デメンシアカンファレンスを開催

2024年2月7日

2月7日（水）に福井大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第101回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「物忘れを主訴に受診した39歳男性の1例」のタイトルで、福井大学からの症例報告が進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド

物忘れを主訴に
受診した39歳男性の1例

1)福井大学神経内科, 2)福井大学遺伝診療部
○遠藤芳徳¹⁾, 井川正道¹⁾²⁾, 堀内裕介¹⁾, 佐々木宏仁¹⁾,
北崎佑樹¹⁾, 榎本崇一¹⁾, 山村修¹⁾, 濱野忠則¹⁾

第101回デメンシアカンファレンス(2024.02.07)

第 101 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

「物忘れを主訴に受診した 39 歳男性の 1 例」

発表者：遠藤芳徳（福井大学脳神経内科）

【要旨】

症例は 39 歳男性。X-3 年（36 歳）に、仕事に対する不満（職場の環境が悪い、同僚と折り合いが悪い）のため退職。その後、宅建の資格をとるために学校に通い、資格試験を 3 回受験するも不合格となった。X-1 年（38 歳）ごろより物忘れを学校の同級生より指摘されるようになった。X 年夏（39 歳）ごろより物忘れが悪化した（携帯電話、鍵、保険証をなくす、就職試験の面接日を忘れる）。X 年 11 月 9 日に当院総合診療部受診。認知機能低下を認め、X 年 12 月 2 日に当科紹介初診。精査加療目的に X+1 年 2 月 27 日に当科入院となった。HDS-R16 点、MMSE19 点、FAB9 点、ADAS19.6 点と認知機能低下を認め、高次機能障害として、肢節運動失行、構成障害を軽度認めた。髄液ではタウ蛋白とリン酸化タウ蛋白の上昇は認められたが、 $A\beta$ (1-42) の低下や $A\beta$ ratio の低下は認めなかった。頭部 MRI では海馬の萎縮は目立たなかったが、頭頂葉の萎縮を認めた。IMP-SPECT では頭頂葉、楔前部の血流低下を認めた。以上の結果よりアルツハイマー型認知症を第一に疑ったが、若年発症の認知機能低下であり、診断を確定するためにアミロイド PET を施行した。前頭葉と基底核に集積を認め、アルツハイマー型認知症に矛盾しない所見であった。濃厚な家族歴あり、本人・家族の希望あったため、遺伝カウンセリングの上、遺伝子検査を行った。結果、PSEN1 のエクソン 8 に Ala260Val 変異を認めた。APOE 遺伝型は 3*3 であった。以上より、家族性アルツハイマー型認知症と診断した。

【質問・意見】

質問：教育歴は

回答：教育歴 12 年。最終学歴は商業高校卒業（発表内では 4 年生大学卒業と返答しましたが、修正させていただきます。）

質問：髄液中の $A\beta$ (1-42) / $A\beta$ (1-40) 比の低下は認めないか

回答：通常 1 : 9 程度と言われており、本症例は比の低下は認めなかった。

質問：アミロイド PET で線条体や視床に集積は認めるか。

回答：線条体や視床に集積を認めます。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第101回デメンシアカンファレンス(Web)

2024年2月7日(水) 18:30~

「物忘れを主訴に受診した39歳男性の1例」

発表者: 福井大学医学部附属病院内科学(2) 遠藤芳徳

担当: 福井大学

対象: 認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム (Webex) を使用

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します
- ・上記以外で参加を希望される方は2月6日までに、氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号

TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208

E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL:<http://ninpro.jp/>